
魔法少女プリルラ

konno

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女プリルラ

【Nコード】

N3669Y

【作者名】

k o n n o

【あらすじ】

魔法少女プリルラとは愛と正義の魔法少女である。しかしその正体とは…。

美少女の一切登場しない魔法少女の宴が今始まる。

プロローグ（前書き）

いらしゃんせー。よかったら見てください。

プロローグ

「ハアーハッハッハ！燃えろ！すべて燃えてしまえ！この帝王、ジャアック・ニコルソンの前にひれふすがいい！ハッハッハ！」

炎に包まれる街。逃げ惑う人々は叫びを上げ、さながら地獄の光景だった。

このままでは住処を失い、難民と化した人々が郊外にドーナッツの輪を作ることになる。治安は乱れ、犯罪は増加、道徳は地に落ち、政治への不信は民衆を革命へとかきたて、終わらない血の連鎖をつむぐ事になってしまう。そんな悪夢をこのまま黙って待っているわけにはいかない。人々の思いは一つだった。誰か、助けて。と。

「そこまでよ！ジャアック！」

天から光が差し込んだような声。人々は天を仰ぎ、それを見る。

空中に浮かぶ小さな体。穢れのない白の衣をまとい、スカートにはふんだんにフリルがあしらえられており腰元には大きなピンクのリボンが主張している。胸元を彩る宝石は今年の流行色を取り入れたブッチブランドの新作だ。あどけない顔に大きく愛らしい瞳。その瞳の奥に正義の炎が燃えている。その名は

「愛と正義の魔法少女プリルラ！ただいま到着！」

キメポーズ。人々から歓喜の声があがる。

「あらわれおつたなプリルラ…。今日こそ決着をつけてやろう」

「罪の無い人々を苦しめて！許さないんだから！」

「罪の無いだと？ふざけるな！こいつらのしたことを知らないといわせんぞ！望んでもいない開放を謡い、わが国に侵略してきた恥知らずどもが！息子はそのせいで殺されたんだぞ！貴様らにあおられた反体制派によつてなぶり殺しだ！あれほど民衆に愛された男がその手にかかつて殺されるとは…。いまや息子は歴史に残る大虐殺者となっている。息子の汚名はかならず晴らす。貴様らを根絶やしにして、歴史を変えてやる」

「んー…よくわかんないよ。あー！！あの店お気に入りだったのに燃えちゃってる！！」

「おい…。せっかく重要そうな話してんんだから聞いてやれよ…」

「あ、タヌ原さん」

タヌ原さんはプリルラをサポートする動物型妖精だ。握りこぶしほどのサイズで、武器に変身する能力がある。ちなみに犬型である。そのほかに猫型のマイケル、鳥型のホルス神などがいる。

「おのれプリルラ！わしを愚弄しおって！くらえ黒い炎（Get it on）！」

ジャアツクの手から黒い炎が放たれる。ひらりとよけるプリルラ。

「うわ！あぶない！あー！！髪がちょっと焦げてる！…もー怒ったよ！タヌ原さん！」

「あいよ」

タヌ原さんがひかり、やがて一振りの杖になった。

「いくよー！マジカルマジック！ファイアー！」

ファイアーと呼ばれたそれは火の玉とは形容しがたく、見るものはみな太陽を思い浮かべる。万一操作を誤って地表に落としてしまうとあたり一体が小規模の恒星と化してしまうので敵を葬り次第、手で消さなくてはならない難儀な技だった。

高速で迫る太陽、避けるのは困難だ

「クソ——」

叫び声は途中で掻き消えた。

後に残るものは何も無い、まさしく必殺技だ。

「やっつけたかな！？」

「それより先にファイアーを消せ！ファイアーなんて軽々しいものじゃないんだからな！早く消せ！」

「わかったよー。ほい消えた」

地表すれすれでファイアーは消えた。

「うーん。いないねー。やっつけたかな！」

「あれをくらうと消滅するからな」

きよろきよろとビー玉でも探すようにあたりを見回す。しかしジャアックの姿は見えない。

「おのれプリルラ…」

「…！ジャアック！どこにいるの！でてください！」

不意に声がしたが姿は見えない。

「くう…この化け物め…。全力をもって逃げ出したがしばらくは戦えまい…。しかし覚えておけよ！わしはまた戻ってくる！何度でもな！」

ハハハと笑い声が遠くに消えていく。逃げ出したくせに笑われるとはなんとも釈然としない気持ちになったがいつものパターンなので気にしないことにした。

ふと気づくと人々が歓声を上げている。街を救ったプリルラを称えているのだ。

「ほらなんか答えてやれ」

タ又原さんが言う。気恥ずかしいがキメポーズで歓声に答えた。さらに高鳴る歓声。

「ハハハ…。アイドルみたいだね…。ちょっと恥ずかしいな。写真もいっぱい撮られてるし。うわすごい！天体観測するみたいなカメラだ！」

「まあ街を救った英雄なんだ。これくらいは当然じゃないか？とりあえず愛想をふりまいとけ。あとスカート押さえたほうがいいと思うぞ」

「？なんで？」

「…いやなんでもない。俺は疲れたから帰るぜ…」

ポンと煙を残してタ又原さんは消えた。

「私も帰る。明日の宿題まだやってないんだよね…。魔法少女もつらいのよね…。みんなー！ありがとー！またジャアックが来てもやつつけるから安心してねー！じゃーねー！」

プリルラは人々に手を振り続けながら飛んでいった。その小さい後姿に人々はいつまでも惜しみない拍手と、嵐のような歓声を浴びせ

るのだった。愛と正義の魔法少女。彼女はいついかなるときでも人々のために戦う、正義の体現者である。

フィードアウトしていく映像。そして文字が浮かび上がる。

「提供 三ツ藤工業株式会社

制作 MOD HOUSE」

スローテンポの緩やかな曲が始まりスタッフロールが流れたしたところで画面が黒に染まり目の前に男の姿が移った。後退した髪際がさびしいどこにでもいる中年。そう自分だ。だらしなく開いた口元を閉じリモコンを持っている男に話しかける。

「なんですかこれ？」

「プロモーションビデオです」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3669y/>

魔法少女プリルラ

2011年11月9日06時26分発行